

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回藤井寺市地域包括支援センター運営協議会
開催日時	令和5年7月24日（月）午後2時から午後3時15分まで
開催場所	藤井寺市役所6階604会議室
出席者	<p>委員：会長 竹口 輝彦（保健・医療・福祉の代表） 委員 徳久 輝明（保健・医療・福祉の代表） 藤井 洋子（保健・医療・福祉の代表） 藤井 達也（介護（予防）サービス事業者の代表） 福塚 充（被保険者代表） 明石 マスミ（被保険者代表）</p> <p>事務局：健康福祉部高齢介護課長 村上 敏幸 健康福祉部高齢介護課課長代理 澤多 良明 健康福祉部高齢介護課高齢者福祉支援担当チーフ 松井 伴樹 健康福祉部高齢介護課総務担当チーフ 井原 佳奈子 健康福祉部高齢介護課総務担当 佐藤 美早紀</p> <p>説明員：藤井寺市社会福祉協議会事務局長 前原 由幸 藤井寺市地域包括支援センター長 石山 直哉 藤井寺市地域包括支援センター（社会福祉士） 羽根 武志 藤井寺市地域包括支援センター（保健師） 佐々 英治 藤井寺市地域包括支援センター（主任介護支援専門員） 山本 栄枝 藤井寺市地域包括支援センター（主任介護支援専門員） 能澤 佳余子</p>
欠席者	副会長 長畑 多代（学識経験者）
会議の議題	<p>(1) 令和4年度決算及び事業報告について</p> <p>(2) 令和5年度予算及び事業計画について</p> <p>(3) その他</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度決算及び事業報告書」 ・「令和4年度自己評価表」 ・「令和5年度予算及び事業計画書」 ・「藤井寺市地域包括支援センター（指定介護予防支援事業所）委託契約を締結した居宅介護支援事業所」
会議の要旨	藤井寺市地域包括支援センターにおける令和4年度決算・事業実績・自己評価結果の報告及び令和5年度予算・事業計画の説明
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録

記録内容の 確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
公開・非公開 の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	0 人

審 議 の 内 容	
<p>○事務局より、本日の会議が成立した旨の報告</p> <p>○委員、事務局職員及び説明員の紹介</p> <p>○議題</p> <p>(1) 令和4年度決算及び事業報告について</p> <p>「令和4年度決算及び事業報告書」に基づき、地域包括支援センターより報告を行う。 「いきいき笑顔応援プロジェクト」の案内を参考資料として配布。 「令和4年度自己評価表」について、地域包括支援センターより報告を行う。</p> <p><質疑応答></p> <p>(A委員)</p> <p>いきいき笑顔応援プロジェクトは一人暮らしの人でも利用できますか。配偶者や子どもがいたら説明と一緒に聞けるけど、しっかりしていない高齢者一人だけで聞いているのは、分からないということはないですか。</p> <p>(事務局【地域包括支援センター】)</p> <p>専門職からのアドバイスは紙にして渡すなど分かりやすいですし、継続したサービスが必要な方は介護サービスにつないでそのあともしっかり連携できますので、一人暮らしの方でも大丈夫です。</p> <p>(2) 令和5年度予算及び事業計画について</p> <p>「令和5年度予算及び事業計画書」に基づき、包括支援センターより説明を行う。 「藤井寺市地域包括支援センター（指定介護予防支援事業所）委託契約を締結した居宅介護支援事業所」一覧に基づき、包括支援センターより説明を行う。</p> <p><質疑応答></p> <p>(B委員)</p> <p>認知症初期集中支援チームで活動しているのはどんな方ですか。認知症地域支援推進員は、専門の資格を持った方ですか。</p> <p>(事務局【地域包括支援センター】)</p> <p>チームは、認知症の専門医に一人お願いしているのと、包括の担当者は保健師が担っており、他に社会福祉士2名で活動していて、地域支援推進員と一緒にいることもあります。地域支援推</p>	

進員は、保健師が担っています。

(B委員)

認知症になる方は増加の一途を辿ると考えられますが、市民にはまだまだ伝え切れていないのではないかと、地域ぐるみでのネットワークは構築できているのかな？と感じます。今後の認知症施策についての藤井寺市の考えはどんなものでしょうか。認知症の方が増えるにあたって、介護する家族からの相談などはどんな声がありますか。

(事務局【地域包括支援センター】)

専門医にかかっておらず、初期症状が出てきているような方からの相談は多いです。包括では地区担当がまず話を聞いて、訪問し、包括として対応するか、同意があれば初期集中支援チームとして支援することもあります。

(B委員)

私たちも最終的には認知症になるかもしれない、だからお互いさま、という雰囲気地域があればいいと思います。

(事務局【地域包括支援センター】)

認知症の方の家族向けには「ナイスのつどい」というサロンを包括で実施しています。地域の会館等のサロンに参加していた方でも、認知症が強くなってくると行けない、家族としても行かせられなくなる、ということがよくあり、そうすると参加できる場所がなくなってしまうので、包括で居場所づくりを始めました。これは10年程前に「NICE！藤井寺」といって「認知症になってもいきいき暮らせるまちってええやん」を合言葉にやってきたことから始まっていて、認知症の方だけではなく障害や年齢なども関係なくどんな方でも参加できる場所を、と意識して取り組んでいます。

(A委員)

夫が認知症で妻が面倒を見ている場合は妻は周囲に相談できますが、妻が認知症の場合、夫は周囲に相談しにくい、という状況があるようです。周りに言うのは恥ずかしいとかで言えず、妻を家にこもらせているから余計に認知症状も悪化したり、どこにも行きたくないと言い始めたりするようです。自分もいつかはそうなるんだろうと悩みながら面倒を見ている、という様子です。

(事務局【地域包括支援センター】)

そういった方にとってはまず、包括が知られているかどうか問題かと考えています。男性にとって地域の居場所がないと、まずその悩みを発信できる場もないことになる。地域の居場所があってそこで相談できれば、その中に包括のことや初期集中支援チームや認知症専門医を知る人がいれば伝えられます。包括と住民の間に、いい意味での「おせっかいさん」が地域にいてくれば本当に助かるかと考えています。

(A委員)

ちょっと困っている段階で、周りの人に相談できればいいのですが。男性が現役時代サラリーマンで会社では偉かった場合などは、リタイアしてからも地域になかなか入っていけない、弱みを見せたくない、となるのだと思います。そんな状況の人を見ていたらどうしたらいいんだろうと思います。

(C委員)

民生委員は地域の身近な相談相手として地域で活動させてもらっています。近所で何か困っている人がいれば、話し相手にもなって、社協や包括とのつなぎ役になることもできますし、一緒に訪問させてもらったりもできますので、民生委員に声をかけてもらえればと思います。

(A委員)

民生委員さんのことも伝えますが、受け入れられない人もいます。男性って「また相談します」

というぐらいで、前に進まないと感じます。

(C委員)

訪問時も「健康相談に来ました」とか言い方を色々工夫していて、その人に合った入口、方法を模索していけるので、お困りの人は力になればと思います。

(3) その他

特になし

○全体を通した感想や地域包括支援センターに対する助言等

(C委員)

包括の職員が時間外業務として携帯電話を持って帰って 24 時間体制で相談を受け付けているのは、市民の方にとっても安心でありがたいと思います。私自身、在宅医療をしているので 24 時間いつ電話がかかるか分からないという状況は精神的にしんどいと感じるので、職員の方に対してはそれに見合う評価をしていただければと思います。

(B委員)

認知症の方が事故や犯罪に巻き込まれるというニュースもよく目にします。地域ぐるみで若いうちから認知症の方と触れ合う機会があればと思います。身近な人が突然認知症になってあたふたしないように、現役世代へのアプローチをしておくのがいいかなと思います。

(D委員)

高齢者が増えて包括はもっと相談が増えて忙しくなるんじゃないかと思うところ、データを見ると昨年の実績と横ばいとかちょっと増えただけ、ということが気になります。では包括に相談をしていない人たちはどこへ相談しているのか、市民にまだ包括が知れ渡っていないんじゃないかと感じました。

(A委員)

包括は本当によくやってくれているなあと常々思っています。色んな形を作ってやっていて、委員をやらせてもらうようになった十何年前から比べたらすごいなと感動して感謝しております。

(E委員)

委員になって初参加ですが、すごく組織的に色々なことをされているなど分かりました。民生委員だけでなく地域がもうちょっと深く入っていく必要があるんじゃないかと思いました。私は 80 歳を過ぎて一人暮らしで、いきいき笑顔応援プロジェクトは今回知りましたが、生活環境に合わせてアドバイスをくれるとあるし、まして栄養のことは何も知らずに人生を送ってきたので、こういうのがぜひ必要じゃないかと。自分自身の生き方も考えられるんじゃないかと感じました。こんなに包括は頑張ってくれてるんだよと、みんなに知らせたいと思いました。これからも頑張っていたきたいです。

(B委員)

いつも民生委員として、包括には相談事をして助けていただいています。民生だけでなく老人会や福祉とも協力して、地域の方のサポートができるように、できるだけ困りごとを解決したい

と思って活動しています。藤井寺市に住んでいてよかったなと思ってもらえるように、微力ながらも頑張りたいと思います。

(C委員)

ありがとうございました。事務局においては、本日頂いた意見を今後の方針や事業の運営に活かしていただくよう、よろしく申し上げます。

○閉会